

平成23年2月

# 高橋俊作 学位論文審査要旨

主査 池口正英  
副主査 稲垣喜三  
同 長谷川純一

## 主論文

Prognostic impact of clinical course-specific mRNA expression profiles in the serum of perioperative patients with esophageal cancer in the ICU: a case control study  
(食道癌術後周術期におけるICU管理患者の血清中各種遺伝子mRNA発現と患者予後予測、  
ケースコントロールスタディー)

(著者：高橋俊作、三浦典正、原田知実、王中志、王心慧、坪倉秀幸、大島嘉明、  
長谷川純一、稲垣喜三、汐田剛史)

平成22年 Journal of Translational Medicine 8巻 103

## 審査結果の要旨

本研究は食道癌全摘術または亜全摘術を受けた27名の患者について、手術後のICU管理期間中経時的に血清中mRNA発現の変化をモニターし、有害な事象発症の予測因子となるバイオマーカーを検索したものである。その結果、11種のメディエーターのmRNAが経過中一過性の発現量の上昇をきたすことを認め、さらにIL-6 mRNA発現が手術の侵襲と周術期の予後をよく反映することを示した。本論文の内容は、周術期ならびに術後管理の分野において、明らかに学術水準を高めたものと認める。